



田中 修 (TANAKA Osamu)

国税庁税務大学校長 兼財務省財務総合政策研究所副所長

東京大学法学部卒業。
東京大学大学院総合文化研究科 (学術博士号)。

東京大学法学部卒業、大蔵省に入省。国税庁・銀行局・主計局勤務を経て、1996年から2000年まで在中国日本国大使館経済部に1等書記官・参事官として勤務し中国経済を分析。帰国後、財務省主計局主計官、信州大学経済学部教授、内閣府参事官、財務総合政策研究所研究部長を経て、2010年7月から同研究所次長(副所長)、2016年6月から国税庁税務大学校長を兼務。

2005年7月、中国の経済政策史の研究で東京大学大学院総合文化研究科より学術博士号取得。2008年10月-2009年3月東大EMP第1期受講生。2009年4-9月、東京大学大学院総合文化研究科客員教授。2008年10月より東京大学政策ビジョン研究センター客員研究員。

専門は、現代中国のマクロ経済・マクロ経済政策の動向分析。

著書は「スミス、ケインズからピケティまで 世界を読み解く経済思想の授業」(日本実業出版社、2015年)、「2011~2015年の中国経済—第12次5ヵ年計画を読む—」(蒼蒼社、2011年)、「検証 現代中国の経済政策決定—近づく改革開放路線の臨界点—」(日本経済新聞出版社、2007年)、「中国第10次5ヵ年計画—中国経済をどう読むか?—」(蒼蒼社、2001年)、「2020年に挑む中国—超大国の行方」(共著、文眞堂、2016年)、「中国経済はどう変わったか」(共著、国際書院、2014年)、「中国ビジネスを理解する」(共著、中央経済社、2013年)、「中国資本市場の現状と課題」(共著、財經詳報社、2013年)、「中国は、いま」(共著、岩波新書 2011年)、「国際金融危機後の中国経済」(共著、勁草書房、2010年)、「中国経済のマクロ分析」(共著、日本経済新聞出版社、2006年)、「中国の経済構造改革」(共著、日本経済新聞出版社、2006年)など。

論文は、「第9次5ヵ年計画から第10次5ヵ年計画へ—中国マクロ経済政策の動向分析—」(財務省財務総合政策研究所「フィナンシャル・レビュー」56号、2001年所収)、「中国経済政策史(1996-2004)—財政・金融を中心に—」(財務省財務総合政策研究所ディスカッション・ペーパー 05A-09、2005年)、「中国第11次5ヵ年計画の研究—第10次5ヵ年計画との対比において—」(内閣府経済社会総合研究所ディスカッション・ペーパーNo.170、2006年)、「2008年における中国のマクロ経済政策の転換—引締めから緩和への政治過程—」(財務省財務総合政策研究所「フィナンシャル・レビュー」96号、2009年所収)、「中国経済の強靱性と脆弱性」(日本国際問題研究所「国際問題」2010年4月号所収)、「中国のマクロ経済政策」(日本評論社「経済セミナー」2010年8・9月号所収)、日本経済新聞「経済教室」(2011年2月3日、2012年4月24日、2013年8月26日)、「習近平指導部の経済改革・経済政策」(財務省財務総合政策研究所「フィナンシャル・レビュー」119号、2014年所収)ほか多数。

「検証 現代中国の経済政策決定—近づく改革開放路線の臨界点—」でアジア・太平洋賞特別賞を受賞(2008年)。